佐藤尚中先生略年譜

佐藤尚中先生年譜（1827—1882）

文政10年（1827）4月8日　1歳　下総国（千葉県）小見川で小見川藩医山口甫仙の次男として生れる。母はエン。幼名は竜太郎、名は鏐。

天保13年（1842）　16歳　これより先、尚中は鳥羽藩医安藤文沢に医学を学んでいたが、ある日、文沢の代りに大怪我人の手当にあたる。この治療態度が少年と思えぬ大胆なるものであったことから、文沢は尚中の素質の優れていることを見抜き、蘭方医和田（翌年佐藤と改む）泰然に師事することを薦める。よってこの年泰然の和田塾に入門。なお、尚中はそれより先、漢学者寺門静軒に儒学を学ぶ。

天保14年（1843）　17歳　泰然、薬研堀の和田塾を女婿林洞海に任せ、佐倉に移住。同地に順天堂をひらく。尚中は泰然に同行する。

嘉永3年（1850）1月　24歳　実父山口甫仙歿す。享年62実母はその前年に56歳で亡くなる。この頃、尚中は城舜海と称す。この頃『繃帯須知則』を訳述す。

なお、山口甫仙と実父の姓名を継承したときがあり、この頃の訳述書に『翁氏動脉施術論』と『暗氏経験記』がある。

嘉永6年（1853）2月　27歳　尚中、泰然の養子となる。この頃、関寛斎が順天堂で行われた手術等を『順天堂外科実験』に書き残す。それにより尚中が泰然門人中、名実ともに第一人者であることがわかる。

この年、泰然、佐倉藩に正式に禄仕。十五人扶持、給人医師上座外科眼科として召抱えられる。

安政4年（1857）　31歳　4月2～4日佐倉藩砲術演習を下志津原で行う。試射に際し医師が交替で立合う。尚中出役。

安政5年（1858）　32歳　コレラ流行。尚中『穆氏格列羅説』を訳述。5月16日、下志津御町場での大筒の試射に尚中ら医師が交替で立合う。

安政6年（1859）4月7日　33歳　泰然の隠居により、尚中が家督相続（十五人扶持）

この年、佐倉藩の医学所改革が行われる。

この頃セリウスの外科書の翻訳を行う。『瘍学全書』

万延1年（1860）3月13日　34歳　尚中、佐倉藩医学所蘭方教授に任命される。

同年閏3月、門弟岡部済海に送る書を記す（嘉永5年に済海の実父岡部均平の行った帝王切開術の成功を讃えた文）。ここに初めて尚中と署名。

同年10月23日　尚中へ佐倉藩より長崎へ半年滞在の許可が出る。11月12日江戸上屋敷を出立。関寛斎ら門人四名が同道。12月21日長崎到着。23日に松本良順の案内でポンペと面会。24日、長崎奉行所にて医学伝習につき誓詞血判を行い、正式にポンペよりの伝習許可を得る。

文久1年（1861）　35歳　2月、長崎滞在をさらに半ケ年延長を願出て、許可される。10月、『雲蛭児理喀血労瘵篇』の記述なる。

文久2年（1862）　36歳　1月25日　尚中長崎を出立。3月6日　江戸到着。3月14日佐倉へ帰着。帰郷に先立ちポンペよりストロマイエルの外科書等を貰う。

同年5月　尚中、小見川藩主山口主殿の病用のため江戸へ出張。9月、堀田兵庫病気の治療にあたる。

同年6月　尚中、五人扶持加増されて、都合二十人扶持、勘定頭となる。

この頃、ストロマイエルの外科書の翻訳を始める。

元治1年（1864）1月5日　38歳　堀田正睦の病気悪化により「御用引」を仰付られる。1月6日、泰然横浜より帰宅。3月21日正睦逝去。

8月29日　水戸藩騒動のため佐原表へ出張御人数の見廻りを命ぜられる。

慶応1年（1865）　39歳　1月22日尚中、堀田正倫について江戸に行く。

9月6日　正倫、京都警衛のため江戸を出立。尚中供奉す。

5月　『期篤魯黙児砲痍論』を出版。

10月　長男百太郎を英学修行のために横浜に出す。

11月　ストロマイエル外科書の訳書『外科医方』の出版の準備にかかる。

慶応2年（1866）　40歳　2月6日　尚中、京都より帰着。

3日　尚中、門人を一級～四級、無級の五段階に分ける。この区分は語学だけでなく治術の力を十分に加味したものであり、語学のみを学ぶ者に対しては翻訳生と呼び、区別している。

4月29日　家老より尚中に宛てて京都警衛に際して病院を作り将兵の療養に尽したことに対して褒美として金二百疋が与えられる。

10月7日　佐倉藩医制改革行われる。教授以下の制を廃し、一等、二等、三等医師の制を定め、一等医師は藩の医政に関する一切を統括す。尚中、一等医師に任命される。

10月　幕府より佐倉藩に尚中の西ノ丸出仕方を求めるが、医政改革、病院設立に欠くことのできぬ人物であることを歎願し聞き届けられる。

慶応3年（1867）　41歳　2月18日　長男百太郎を廃嫡、3月12日　妻サダ、結核にて歿す。享年39。

3月23日　高和介石を養子にすることを願出。介石、佐藤進と名を改む、11月25日、長女静を進に配す。

8月23日　佐倉養生所設置。

10月18日　佐藤進、佐倉藩の御雇勤を命ぜられる。12月19日進、十人扶持第二等医師に仰付られる。

慶応4年（1868）　42歳　1月6日　横浜滞在中の悴統三郎重病のため横浜へ出立。22日帰宅。

2月6日　進、松平容保の依頼で出府会津藩士の手当に当る。

3月6日、帰宅。

閏4月　佐倉藩養生所閉鎖。
閏4月12日　東海道副統督、佐倉に入城、同日城代平野縫殿、尚中に出府を命じ、同月15日より21日まで出府させる。
閏4月29日　大総督宮より尚中に宇都宮まで負傷兵の手当のため出張を依頼、5月25日に帰宅。
6月24日　佐藤進、倉次元意負傷兵の手当のため奥州白河に出張。大滝富三同道。進、奥羽出張病院頭取に任ぜられる。
明治2年（1869）　43歳　2月　進はドイツ留学のため佐倉を出立、6月21日に横浜を出航。
8月6日　尚中、太政官より医学教育確立のため出仕を求める。病気を理由に辞退。同月28日、開拓使から尚中に出府を求める。病気を理由に断る。この頃、ニーマイエルの内科書の訳述に専念する（『済衆録』）。
11月19日　尚中、佐倉藩校成徳館の督学に任命されるが、11月に出府。
12月5日　尚中、大学大博士に任命される。
明治3年（1870）　44歳　1月　下谷山本町19番地に家宅を購め、家族を佐倉より呼び寄せる。
閏10月10日　尚中、大典医を兼任。
明治4年（1871）　45歳　尚中、大学大丞兼大学大博士大典医に任ぜられる。
4月　太政官より海軍病院取建御用を命ぜられる。
5月　尚中、典医・陸海軍の軍医を大学東校に所属せしめ、医政の一元化を建言する。
7月　官制の改革により、尚中、文部大丞兼文部大教授大典医に任ぜられる。
8月23日　ドイツ人医学教師（軍医）2名東校に着任。
再び官制の改革により、尚中、文部少博士兼大侍医に任ぜられる。
明治5年（1872）　46歳　1月11日　尚中、東校学事主務兼院長を任命される。
同月18日　少典医を兼任。
同月28日　尚中、「病院改称伺」を文部省に出す。これより病院を医院と改称。
2月　文部省に「会社医院取建伺」を出す。
4月10日　佐藤泰然逝去。享年69。
9月5日　博士という官名が廃止となったため同月14日尚中に対し、少博士を受官し少典医専任となし、文部省兼務を命ずる辞令が出される。
10月　「第一大学区医学校変則生徒教授廃止につき建言。その存続を求める。
10月　日本橋本町二丁目に博愛舎を開設、尚中ら出張治療を行う。
この頃、尚中、皇室に対して「医院設立仕方」の建白書を出す。
明治6年（1873）　47歳　1月4日　宮中より東京府に対して尚中の建言を入れて病院設立する旨の布告がある。
同月9日　尚中より佐々木東洋、宮下慎堂を新設の病院に奉職

させることを求める。
1月17日　東京府、尚中の進言を入れず、尚中に出張を求めたままの形で病院開設を布告。尚中、この直後、いっさいの官職を辞職。
2月2日　練塀町9番地に順天堂（50床）を開設。博愛舎の患者16名がここに移る。
5月　増築工事、9月　増築工事。
明治7年（1874）　48歳　4月2日　尚中、隠居して家督を岡本道庵に譲る。道庵、名前を佐藤大道と改む、のちに尚中の佐倉時代の名前舜海を襲名。ドイツ留学中の進は東京の順天堂を継承することを約束する。
7月　湯島五丁目の火消屋敷跡地を求める。9月より同地に新病院建築に着工。
8月10日　進はベルリン大学をアジア人として初めて卒業。
明治8年（1875）　49歳　4月3日　湯島に新病院開院。練塀町より患者66名移る。同月13日、尚中倒れる。6月病状好転。7月より出勤。
7月7日　進ウィーンより帰国。これより尚中が内科を、進が外科を担当。この頃、入院患者100名余、外来患者は1日50～60名。
8月　『順天堂医事雑誌』を創刊。
この年、東京医学会社（医学会）発足。尚中は創立メンバーとなる。
明治9年（1876）　50歳　この頃、尚中、下谷根岸に住む。
7月2日　尚中の末子（大滝潤家）誕生。
明治10年（1877）　51歳　4月　西南戦争のため進は大阪臨時陸軍病院に出張。尚中、留守を守って順天堂二階に住む。
5月　長唄「鄙の室」を作詩。
明治11年（1878）　52歳　6月7日　内務省、褒賞のため東京府へ尚中および福沢諭吉の功績についての問合せあり、それに対して回答する。
12月2日　東京府、佐藤尚中ら8名を医業取締に任命。
この頃、療養のためとしばしば熱海に逗留。逗留中にニーマイエルの内科書を訳述する。
明治12年（1879）　53歳　2月ニーマイエルの訳書『済衆録』の出版開始。明治15年まで続く。
明治14年（1881）　55歳　10月　井上虎三、尚中の養子となり、佐藤佐と改む、尚中の三女楽と婚約。
明治15年（1882）　56歳　2月3日　佐、ドイツ留学のため出立。
7月23日　尚中逝去。享年56。